

業務用ロボットを安価に貸し出す動きが増えている。オリックスは物流向けなどでレンタル機種を拡大し、ロボット商社やリース会社もサービス体制を強化する。各社はレンタル費用を1台月30万円程度に抑えて、人手不足に悩む企業のニーズを掘り起こす。

総合物流業のキムラユニティーは昨年、オリックス・レンテック（東京・品川）の物流向けロボットを複数台レンタルしている。愛知県内の倉庫では無人の搬送ロボットが走り回り、エレベーターに自動で荷物を運び込む。人とフォークリフトが担っていた作業を置き換え、ある現場では作業員の残業が1日当たり2

## ロボ、レンタルで安く

### オリックスなど、月30万円で

時間減ったという。ためハードルが低い」とキムラユニティーは企業物流RI推進室の広中一嘉室長は指摘する。オリックスは16年に日用品から車部品まで、レンタル事業を始め、現在の約40機種を取り扱っている。主力は人と一緒に作業できる「協働ロボット」。初期投資も安い。や物流向けの搬送ロボット。



ロボットのレンタルは普及し始めている

### 製造業や物流 人手不足で中小に需要

購入すれば1台数百万円、高島ロボットマーケティング（東京・千代田）は、月額30万円以下で貸し出す。本社が決定したい製造業の需要を取り込んでい」と新規事業開発部長の小林剛輝氏は話す。最近ではオリックスの物流倉庫を利用してもらう代わりに、搬送ロボットを無料で貸す「フリーレント」も始めた。2020年3月期の受注は約300件と、前期比で5割以上伸びる見込みだ。

ただし、価格が安くなっただけでは普及は進まない。製造ラインなどに導入するにはロボットの設定作業が不可欠で、人手不足に苦む中小企業にとっては悩みの種だ。これを商機と捉えたのが高島ロボットマーケティング（東京・千代田）だ。ロボットのプログラムを調整する「ロボットシステムインテグレーション（Sier）」10社程度と連携。11月から地方の中小製造業などに、協働ロボットを安く手軽に導入できるパッケージソリューションの販売を始めた。富士経済（東京・中央）によれば、製造業向けロボットは25年に18年比2.5倍の2兆8675億円に伸びる。現時点では買い切りが主流だが、初期費用を抑制でき設定作業も軽減できるレンタルサービスは、ロボット導入に二の足を踏んでいた中小企業にとって利点が大い。製造や物流の現場で導入が進みそうだ。（西岡杏）